



うちにある暖房は、エアコン、こたつ、ホットカーペット、電気ヒーター、電気毛布。このくらいかな。みんな電気を使うなあ。



電気がなければ凍えちゃうね。



でも、むかしの家は電気を使った暖房なんかなかったぞ。



どんなだんぼうだったの？



ひばち火鉢とこたつだよ。どちらもすみ炭を入れて暖まるんだ。



こたつって電気がなくても使えるの？

ああ、炭があれば大丈夫。だけど、今のように大きなこたつじゃないよ。ふとんの上に板をのせないからご飯を食べたりもしない。やぐらにぶつ



こたつ



電気ヒーター

\*炭

木炭のこと。木を蒸し焼きにしてつくる燃料。



すみび炭火のこたつ



炭を入れるかご



火消しつぼ

かるから足も伸ばせない。それでも小さなこたつに兄弟みんな集まって、ミカン食べたり、ワイワイやるんだ。楽しかったな。



ひばちは？



うちには大きな<sup>ながひばち</sup>長火鉢と小さな火鉢がいくつもあったよな。



そうだね、長火鉢は<sup>ざしき</sup>座敷に置いて、お客さんにはひとりひとりに手あぶりを置いてね。



あったかかったの？



暖かかったよ。<sup>すみび</sup>炭火は身体<sup>しん</sup>の芯まで暖まるからね。手を差し出して暖まるんだよ。



火鉢には<sup>ごとく</sup>五徳の上に鉄びんを乗せてよ、一日中湯がわいてるんだ。鉄びんでわかした湯は、まるやかでうまかったなあ。



こたつでくつろぐ  
昭和26年2月 四之宮  
(個人蔵)



ながひばち



てあぶりひばち



てつびん



丸ひばち



ごとく

# 寒い夜



むかしの家はすき間だらけでしょ。火鉢<sup>ひばち</sup>ではストーブ<sup>あった</sup>みたいに部屋中暖かくはならないんだよ。



すきま風で寒かったの？



おれの子ども時分<sup>じぶん</sup>には、お勝手の水がめに氷が張ってたぐらだからよ。外といくらも変わらなかったんべ。



寝るときには、おふくろがふとんの足元<sup>あしもと</sup>にあんかを入れて暖めといてくれてよ。それに夜具<sup>やぐ</sup>っていう、ぶあつい綿入れの着物<sup>きもの</sup>みたいなふとんをかけてよ、これを着てれば暖かく寝られんだ。



そう、肩<sup>かた</sup>が冷えないからね。お嫁入り<sup>よめ</sup>のときには、夜具にいっぱい綿をつめこんで持ってきたねえ。夫婦ふた



新聞紙をつめて屋根と壁のすきまをふさぐ家 御殿

\*水がめ

水をためておく大きなかめ。かめは、土を焼いてつくった容器<sup>ようき</sup>のこと。



あんか<sup>すみび</sup>炭火を入れ、ふとんの足元<sup>あしもと</sup>に置いて温まる<sup>あたた</sup>道具。

ゆたんぼ  
お湯<sup>ゆ</sup>を入れてぬの<sup>ぬの</sup>でくるみ、ふとんに入れて温まる道具。



そろえぶんのね。むかしは、  
家族の着物からおふとんか  
らぜんぶ家でぬったからね  
え。



お母さんの時代はほんとに  
苦労したよね。



私はそれが好きだったから、  
べつに苦労とも何とも思わ  
なかったけどね。それに、  
うちは**ぶんけ**だからね。長男  
の嫁は**お姑さん**に気がつ  
かってたいへんだったろう  
ね。



話がそれてきたけど、**けっきょく**  
結局、  
むかしはそれほど暖房しな  
くてもなんとかやってきた  
というわけだ。暖房に頼ら  
ず、寒さに**からだ**を**な**慣らすこ  
とも大事なんだろうな。



そうは言うけど、だんだん  
年とってくると、**もうふ**  
電気毛布  
がありがたいんだよ。



やく  
夜具

よぎ  
夜着やカイマキともいう。

\*分家

元の家から家族が分かれて新しく建  
てた家のこと。

\*お姑さん

しゅうとめ  
けっこんあいて  
結婚相手の母親のこと。おしゅうと  
さんとも言う。



どてら

わた  
ぼうかんぎ  
きもの  
綿が入った防寒着で、着物の上に着る

# いろり



ほんけ  
本家には、いろりがあったよな、  
おやじ。



おお、あった。



いろりって、木を燃すんでしょ  
う？床が火事にならないの？



いろりは内側に壁土をぬりこん  
で、中には灰がいっぱい入って  
るから、まわりの床なんか燃  
えることはない。



家の中で火をたいて、けむくな  
かったの？



けむ  
煙は上に抜けてくから平気さ。  
むかしは、屋根がカヤぶきやム  
ギカウだからよ、煙が抜けてく  
んだよ。それに煙でいぶしてや  
るとよ、屋根がくさらずに長持  
ちすんだよ。柱も戸も黒光りし  
てよ、中で火を焚くのは建物に  
は良いことなんだよ。



博物館「相模の家」の  
「いろり」と「じざいかぎ」



「相模の家」のクド（土間いろり）



「相模の家」の柱と屋根裏



今の家じゃダメなの？



今は密閉<sup>みっぺい</sup>されてるから煙が逃げ  
ていかない。火を焚いたら倒れ  
ちまうべよ。



いろいろでご飯もつくったの？



おお、自在鉤<sup>じざいかぎ</sup>に鍋<sup>なべ</sup>をかけて  
味噌汁<sup>みそしる</sup>を温め<sup>あつた</sup>たり、鉄器<sup>てつき</sup>で餅<sup>もち</sup>を  
焼いたりしたよ。



へ～、いろいろって、あつたまる  
し、お料理もできるし、家も長  
持ちするし、すごいんだね。



でも、やっぱり、うっかりする  
と火事の危険があるよな。



だから、昔は冬になると、火  
の番<sup>ひょうしぎ</sup>とってな、毎晩交替で  
拍子木<sup>あ</sup>叩いて火の用心に歩<sup>ある</sup>った  
もんだよ。



かやぶき屋根の民家 下島



鉄器



拍子木



火の番で歩くとき  
に地面をついた  
かなぼう  
金棒